

建設施工九州支部

# 将来の人材不足に備え

## i-Con技術講習会

日本建設機械施工協会九州支部が主催するi-Con技術講習会(基礎編)が26日、鹿児島市の市町村自治会館であった。県

内の建設業やコンサルタント、行政機関などから約150人が参加。ICT活用工事の普及が進む中、概要やICT施工導入の効果や学び、次代に向けて学びを深めた。国土交通省九州地方整



ICT施工の基礎を学ぶ受講者=鹿児島市の市町村自治会館

備局との共催で、ICT施工の基礎知識の習得を目的に開催。実務での活用を見据えた内容で講習を行った。

会では同局企画部施工企画課の阿久根祐之課長補佐がその背景と概要について説明。

建設業界では10年間で技能労働者約340万人のうち、約110万人が高齢化



このほか同支部団体会員より3次元計測技術とICT建設機械の概要について説明があった。



本番に向け、より実践的な練習を行う参加者-始良市の同社

により離職するとい予想に触れ、「建設業における生産性の向上は国策としても位置付けられ、重要度が高い。今後は地域企業へのICT活用拡大に向けた取り組みが重要」と訴えた。

の先を考える必要がある。受講者は次代を担う人材として、現場から経営者にも提言できるように「してほしい」と呼び掛けた。

同支部では11月に技術講習会(活用編)の実施を予定している。

木村ブロッコ工業(木村由美子社長、始良市)は、このほど、ブロック建築技能士の資格取得に向けた講習会を実施した。

協会が実施する技能検定のブロック建築に関する学科と実技試験に合格した者に与えられる国家資格。資格を保有すると、石工事業、タイル・れんが・ブロック工事業の一般建設業の専任技術者になることができる。

木村社長は「ブロックは本来、安心・安全なもの。正しい施工を行えば地震にも強く、耐久性、経済性にも優れている。毎年当社で行っている講習会。今後も広く周知し受講者増を図っていきたい」と話した。

### CPD研修会

## 江戸の技に迫る

技術士会県支部

日本技術士会九州本部県支部(井内祥人支部長)のCPD(3単位)講演会が24日、鹿児島市のかごしま県民交流センターであった。会員や一般の県民など約30人が受講し、江戸期から地域を支える「土木遺産」とその技術に迫った。

並置した隧道を持つ希少な構造から、2020年度に土木学会選奨土木遺産の認定を受けた宮内原用水(霧島市隼人町)の二穴式隧道群。竣工後300年以上経つ今も稼働し、農業用水の供給などで地域に欠かせない存在だ。

講師を務めた第一工科大学准教授の本田泰寛氏は、当時の技術者を思いながら「制約条件が多い公共構造物にどのような技術を用いて後世に残そうとしたのか」。二穴式を「通水の担保」と捉

講話を前に井内支部長(中央テクノ)は、「鹿児島島の地に住んでいてもまだまだ知らない地域の歴史ある構造物が多い。熱心に聴講いただき、今後に生かしてほしい」と呼び掛けた。

え、「片方の隧道が崩落しても機能保持できるよ。う、余裕を持たせた設計」

の古賀忠直氏は、過去に管内で発生した災害時の活動記録を解説した。

と推測。類似施設として出水市の五万石溝も紹介した。

このほか、同会九州本部防災委員会(国土交通省)50人以上が出席。コミュニケーションを大切に

明るい職場づくりを呼び掛けた。南九州市の桑畑建設

丸のこ等教育(川内)正しい取扱い学ぶ

建設業労働災害防止協会県支部(藤田護支部長)主催の丸のこ等取扱い作業従事者教育が21日、薩摩川内市の川内建設会館であった。同支部川内分會(廣瀬十士分會長)の会員企業などから安全衛生管理担当者ら25人が参加。丸のこ等の構造や働きを学び、正しい取扱い方法などの理解を深めた。

同教育は、丸のこ等による労働災害の減少を図ることを目的に、労働安全衛生法に定める危険有害業務従事者への特別教育に準じ、実施されるもの。

同日は、建設防具支部の堤博志事務局長が、丸のこ等を使用する作業や点検および整備などについて解説し、実技も行われた。堤事務局長は、予測される災害の具体例を通してポイントなど話し、リスクマネジメントの実施を呼び掛けた。

## 初心に帰りゼロ災を

### 桑畑建設グループ安全大会

桑畑建設(桑畑昭三社長、南九州市)グループは26日、同市の事務所敷地内で2021年度安全大会を開いた。コロナ禍によりグループ社員のみ50人以上が出席。コミュニケーションを大切に

誓い合った。桑畑社長は、ハイインリッヒの法則を引用し「ヒヤリハットの経験を生かして仕事に取り組んでほしい。大会を契機に初心に帰ることが大切。コロナや熱中症にも留意

しながら、1年間けがのない明るい職場づくりに努めていこう」と呼び掛けた。

各種表彰に続いて、桑畑次郎社長(吉留建設)が安全衛生管理基本方針を発表。社員代表の満留辰彦さんが安全の誓い、林原秋仁さんが大会宣言し、さらなる安全意識の高揚を図った。

受賞者は次の通り。最優秀工事 前田正信 優秀工事 中村克英 豊倉吉秀 林原秋仁 優秀現場補助技術者 大塚景弘 優秀手技者 秀若手技術者

の先を考える必要がある。受講者は次代を担う人材として、現場から経営者にも提言できるように「してほしい」と呼び掛けた。

同支部では11月に技術講習会(活用編)の実施を予定している。

木村ブロッコ工業(木村由美子社長、始良市)は、このほど、ブロック建築技能士の資格取得に向けた講習会を実施した。

協会が実施する技能検定のブロック建築に関する学科と実技試験に合格した者に与えられる国家資格。資格を保有すると、石工事業、タイル・れんが・ブロック工事業の一般建設業の専任技術者になることができる。

木村社長は「ブロックは本来、安心・安全なもの。正しい施工を行えば地震にも強く、耐久性、経済性にも優れている。毎年当社で行っている講習会。今後も広く周知し受講者増を図っていきたい」と話した。

石綿建築物解体教育(奄美) 改正事項など詳しく説明

建設業労働災害防止協会県支部は20日、奄美市の石綿建築物解体教育(奄美)の奄美建設会館で石綿使用建築物等解体等業務特別教育を開いた。写真。関係者17人が参加し、石綿の使用状況や関係法令など学んだ。

講師は同支部専属講師の関秀正氏が担当し、石綿の有害性や使用状況、粉塵発散を抑制するための措置、保護具の使用など解説。関氏は事前調査や分析調査を行う者の要件新設として、結果記録を3年間保存することや揭示義務等の改正事項を詳しく説明した。